



1646年にローマで出版された『日本の精華』
で紹介されたペトロ・カスイ岐部の肖像

ペトロ・カスイ岐部 (1587~1639)

2007年、その徳と聖性を認められ、ペトロ・カスイ岐部はカトリック教会から福者に列せられました。400年の時を経て、ペトロ・カスイ岐部の生き方は、多くの人々の尊敬を集めています。

出国してローマに到達するまで5年、ローマを出発して帰国するまで8年の歳月を費やしました。「司祭になって人々を救う」という思いを胸に、ペトロ・カスイ岐部は壮大な冒険を成し遂げたのです。



市教育委員会「国東の文化財探訪」より

ペトロ・カスイ岐部

司祭叙階

400 年

江戸時代初期、交通が未発達で旅には大きな危険が伴った時代のことです。「キリスト教を学び、司祭になる」という強い意志のもと、イタリアのローマにたどり着いた日本人がいました。国見町に生まれた、ペトロ・カスイ岐部です。近世初頭で最も広い世界を見た日本人とされています。

1620年、ペトロ・カスイ岐部はローマで司祭に叙階されました。今年（1994）は、

その叙階から400年目に当たります。この機会に、郷土の偉人であるベトロカスイ岐部について振り返つてみましょう。試練を乗り越え、信念を貫いた、その気高い人生。現代を生きる私たちに、困難に立ち向かう勇気を持つことの大切さを教えてくれます。

(注) キリスト教カトリック教会で、司祭等の聖職位を授けること。

(注)キリスト教カトリック教会で、司祭等の聖職位を授けること。



熊毛小の1～3年生の皆さん（ペトロ・カスイ岐部神父記念公園）